

8月6日 生命科学研究部長挨拶・懇談報告

技術職員の処遇改善等について意見交換

組合は、8月6日、2021年度執行部の交替に伴い6月25日に申し入れていた生命科学研究部長挨拶、懇談を行ないました。研究部側からは4月に就任した生命科学研究部長（医学部長）、事務部長をはじめ7名、組合側は、本部執行委員長、医学部支部長をはじめ6名が出席しました。

今回は、2020年度の懇談内容の進捗状況を確認し、新たな議題についても意見交換を行ないました。主な発言内容を報告します。

組織化後、技術部が担うことになった総務関連業務について

2020年4月より組織化された技術部は一部局となり所属する部局の事務が担っていた総務関連業務等を技術部内で行なうことになり、技術職員としての本来の業務に加え総務関連業務等を担う職員の業務量は増加しています。当初は事務担当者を各地区に配置することも検討されました。しかし、組織化後は、工学部がもつ寄付金で雇用された事務補佐員1名が黒髪地区に配置されているのみです。組合は本荘地区の技術職員の負担を減らす為にも事務担当者を配置するべきだと考えます。また、当面、各部局の事務が総務関連業務等を代行するよう要望し意見を求めました。事務部長は「生命系事務部として単独でやるのは難しい。大学本部との調整になる。情報をいただければ、大学本部とも交渉することは可能かもしれない」と述べました。

組合はこの問題について大学本部に要望書を提出し早急に改善を求める予定です。

休憩室、授乳室等の設置について

組合は、基礎医学研究棟12階に会議室、研究部長室、オープンスペース、女性用多目的室、授乳室、留学生の部屋を2021年度中に設置予定との情報提供を受け、組合ニュースでもお伝えしていました。

研究部長は「工事では壁を壊す必要があり騒音と振動の問題がでてきた。この問題を解決する為に日中ではなく土日に工事をするのを改めて相談したが工期に1年以上かかり、当初見積もっていた予算額を大きく上回った。発生する大きな騒音と振動が教育・研究に支障をきたすため、壁を壊さずに部分的な改修ができないか再度検討している。11階に迷惑をかけずにできる女性用多目的室や授乳室の改築を先行するのが現実的だ」と説明しました。組合は「休憩室、授乳室は女性職員にとって非常に利益があるので早く手をつけていただければと思う」と早期に設置するよう要望しました。

教職員の年休取得について

2020年度の懇談の際、教員に対して年休取得5日ルールが周知されていないことが明らかになりました。その後の年休取得状況や周知について確認しました。研究部長は「2020年度は事務系職員については全員が5日以上取得しており、臨床系教員8名が5日未満で95%の取得率だった。2021年3月末までの退職者の取得状況は、10名の退職者の内9名が5日以上取得、残念なことに1名が4日間で90%の取得率になる。2021年7月13日現在、教員の取得率はまだ進んでおらず5日間を取得しているのは約15%の状況だ。この状況はよろしくないの、計画的に年休を取得することについて7月28日の医学系研究部会で5日間は取得するように周知し各講座の教授宛に講座の構成員の休暇の取得状況についてメールで通知をしている」と説明しました。


本荘南地区（保健学科）の防犯対策について

本荘南地区（保健学科）の防犯対策強化のため外灯の増設を求めたところ、研究部長は「ご要望いただいたら病院側に連絡するので、教えていただきたい」と述べました。

外灯設置箇所の要望等がありましたら組合事務所までご連絡ください。

教員25%削減について

7月13日の大学戦略会議で学長が「第3期中期目標期間に部局から抛出を受けている学長裁量ポストの内、全体で20ポストを第4期中期目標期間にかけて部局に返還する」と発言したことについて研究部長の意見を求めたところ、「個人的には、ぜひ見直していただきたい。学長裁量ポストを具体的にどうするのか、会議中に確定的なことはおっしゃらなかった。生命系の部局では1ポストくらい返還されると聞いている。まずは、一歩ずつ返還されることに期待している」と述べました。

組合ニュース	No. 5	熊本大学教職員組合医学部支部	
	2021. 8. 24	内線 5858 メール m-kumiai@union.kumamoto-u.ac.jp	